

# ガバナー月信



三条北 RC 寄贈の桜の木の前で in まちやま (三条市)

## 月信 8月号

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| ① ガバナーメッセージ          | ⑧ インターアクト年次大会      |
| ② 青少年交換派遣学生壮行会       | ⑨ 地区研修委員会          |
| ③ 見附 RC 創立 40 周年記念式典 | ⑩ 財団委員会通信          |
| ④ ローターアクト地区協議会       | ⑪ 地区主要行事予定 (8月・9月) |
| ⑤ ロータリー財団 学友会総会      | ⑫ 新入会員紹介・訃報        |
| ⑥ 地区事務職員合同会議         | ⑬ コーディネーターニュース     |
| ⑦ 危機管理委員会            | ⑭ ハイライトよねやま        |

国際ロータリー第 2560 地区  
2023-24 年度

## 米山ガバナー事務所

〒951-8061 新潟市中央区西堀通七番町 1574  
ホテルイタリア軒 B1  
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



2023-24 年度 ガバナー

**米山 忠俊** (三条北 RC)

ようやく梅雨が明け、暑い夏がやってまいりました。厳しい暑さが続きますが、2560 地区の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。この夏も天候不順で、北九州で水害だと思ったら、今度は秋田県で水害と、日本各地で甚大な被害が見受けられます。また、昨年の新潟県での大雨の被害もまだいたるところに爪痕を残しています。被災を受けられた皆様に改めてお見舞い申し上げます。

さて、7月1日から米山年度がスタートするとともにクラブ公式訪問が始まりました。執筆現在(7/21) まずは5クラブに伺わせていただいております。ガバナーなりたてのホヤホヤで大変緊張しておりますが、皆さんから温かく迎えていただき感謝の気持ちでいっぱいです。私は、ガバナーになったら54クラブすべて対面で訪問したい！と、ノミニーの頃より思っておりましたので、3年ぶりに54クラブすべてに對面で訪問ができると決まったときは本当に嬉しかったです。残り49クラブ残っておりますが、一人ひとりの熱い思い、各クラブのカラーを直接感じられることを楽しみにしております。お役に立てるような有意義な公式訪問になるよう頑張りますので、よろしく願いいたします。

最後に、地区研修委員会設立についてのお知らせです。私たち自身がロータリーについて学びなおす機会を設けることを目的として、昨年度より研修準備委員会が設置されていましたが、本年度より本格的に佐藤真(村上岩船 RC) 委員長指導の下、地区研修委員会を設立することになりました。今年度は、南雲年度のメンバーを対象に各種研修を行っていく予定です。ロータリーの基本に「入りて学び出でて奉仕せよ」という言葉があります。学びなおしの絶好のチャンスです。皆さんも、暑くて外に出られないような日はロータリーの友やガバナー月信などをもう一度読んでみるのはいかがでしょうか。2560地区の皆さんに改めて学ぶ機会を持っていただけましたら幸いです。



## 2022-23 年度最後の オリエンテーションを終えて

青少年交換委員会  
委員長

坂上 彰平 (豊栄 RC)

高橋ガバナー年度で交換学生を募集し短期交換学生 2 名、長期交換学生 1 名が無事 6 月 17 日 4 回のオリエンテーションを終えて学生達もロータリーの平和の大使として育ててくれました。

このプログラムにはロータリーの歴史やロータリーの考え方、自分の事を如何に伝える力、人を思いやる気持ち、自分の命を自分で守る危機管理を学び、4D ルールを遵守する交換学生になりました。(4D ルールとは、デート・ドライブ・ドラッグ・ドリンク禁止されている事)

学生達も頑張りましたが、オリエンテーションに参加された保護者・ホストクラブの方々にも同じ物を勉強してもらいホストの役割を学んで頂きました。受入学生をサポートして貰えると思っております。

同じ日に、短期・長期派遣学生壮行会を行いました。石本危機管理委員長 (パストガバナー) より、安全健康で楽しんで大使の役割を果たして来て頂きたいとお言葉を頂き、派遣通知書を石本危機管理委員長 (パストガバナー) より交付して頂きました。履けん通知書を頂いた学生達は期待と不安もありますが、ワクワク感が今は大きいと言っていました。

室賀ガバナーノミニージェグネートに講評を頂き、色々学んできてくださいと話しておりました。米山ガバナー年度にはアメリカから 1 名ドイツから 2 名の学生が新潟に来られます。インバウンドの学生にも良い思い出、日本との交流が出来ると思っております。





# 感謝とともに新たな歩みへ

見附ロータリークラブ  
2022-23 年度会長  
**三本 進一**

6月18日、高橋秀樹ガバナー、米山忠俊ガバナーエレクト、稲田亮見附市長、スポンサークラブであります三条ロータリークラブの西山徳芳会長、友好クラブであります館林西ロータリークラブの原義裕会長をはじめとする来賓の皆様、第4分区をはじめ各地のロータリアンの皆様から多数のご臨席を賜り、創立40周年記念式典を開催させていただきましたことに厚く御礼申し上げます。

高橋ガバナーのご祝辞では、当クラブ平均年齢55歳が県内では若い方で「将来の伸びしろが期待される年齢構成になっている」と話していただきました。

会員増強が必要であることは言うまでもありませんが、現場の第一線で業務に従事する会員が多いことなどから、例会出席率の向上を最優先課題と捉え、夕方例会開催などの試行を重ねた効果も見受けられるようになっており、さらなる出席率向上を図ることで会員増強につなげていく取り組みは7月からの新年度でも武田浩和会長のリーダーシップによって継続・充実を図り、当クラブ会員一同、高橋ガバナーのご期待に応えられるよう精進して参る所存です。

当クラブ40年の年月の中で、歴代ガバナーの皆様をはじめ多くのロータリアンの皆様からお寄せいただいたご指導とご支援に厚く感謝申し上げますとともに、創立50周年の大きな節目に向け、会員相互の連携・協力を深めながら、一つ一つの新たな歩みを着実に進めていきたいと考えておりますので、ロータリアンの皆様方から、さらなるご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



見附ロータリークラブ 創立40周年記念式典  
昭和58年6月6日の創立から40周年を迎えた見附ロータリークラブは18日、稲田亮市長、小泉勝

**見附RC  
プレイラボへ楽器を寄贈  
創立40周年を記念して**

昭和58年6月6日の創立から40周年を迎えた見附ロータリークラブは18日、稲田亮市長、小泉勝

県議、国際ロータリー第2560地区の高橋秀樹ガバナー、米山忠俊ガバナーエレクト、県内各地のロータリークラブ会員らを迎え、創立40周年記念式典を開いた。

三本進一会長は「奉仕の理想に向けた活動を一歩ずつ積み重ね、会員相互の連携・協力を深めながら、創立50周年に向けた確かな歩みを進めていきたい」とあいさつ。

稲田市長はあいさつで「数々の社会奉仕活動を推進し、市政発展に寄与されたことに感謝する」とし、次のように話した。

市が進める「誰もが暮らし満足No.1のまち」の実現に向けた重要な柱の一つとして「あらゆる方の結集」を掲げ、ロータリークラブのような団体

記念事業として市が7月に開設する「プレイラボみつけ（子どもの居場所）」で使用する楽器を寄贈する旨を稲田市長に手渡した。写真。

が果たす役割は益々高くなっていく。これからも市の取り組みにご理解とご協力を賜りたい。

プレイラボへの楽器寄贈はありがたく、人口減が進む中で子どもたちが元気に伸び伸びと育つまちなに向け、こどもたちが親しみ、楽しむ施設となるよう運営していきたい。

**プレイラボみつけ**

学校町2地内の旧商業施設をリノベーションした屋内施設で、主に小学校高学年の児童が放課後や休日に、思いっきり身体を動かしたり、遊んだり、自由に過ごすことができる施設となる。

令和5年6月22日発行 みつけ新聞



## ローターアクト地区協議会 開催報告

地区ローターアクト代表  
**星野 洸太** (長岡東 RC)

日頃より、地区ローターアクトの活動にご理解とご協力を賜り、ロータリアンの皆様には心より感謝申し上げます。2023-24 年度地区ローターアクト代表を務める星野洸太と申します。どうぞ、よろしくお願い致します。

6月24日に、ANA クラウンプラザホテル新潟において、地区協議会を開催致しました。ご臨席賜りました皆様、ありがとうございます。

今回のテーマは「ちむどんどん」でした。沖縄の方言で「胸がドキドキ、ワクワクする」という意味です。今期の地区ターゲットを「あそびこころ」と決め、地区協議会では来期に向けてワクワク・ドキドキする体験を提供するプログラムを実施しました。

まず昨年度より、ロータリークラブと同格の組織となったことを踏まえ、地区補助金、グローバル補助金を活用することで活動の幅を広げられるように、地区ロータリー財団副委員長になられる鈴木孝二様をお迎えし、セミナーを開催致しました。次に来期の各クラブの役職者を対象としたクラブ運営、地区運営の方針を説明いたしました。

そして、カードゲームを使った参加者同士の交流会を行いました。カードに書かれたお題に沿って、自己紹介をしたり、みんなで褒めあったりするワークを行いました。世代や立場を超えて繋がり、ワクワク・ドキドキし合える地区協議会となりました。

結びに、皆様の今後ますますのご発展をお祈りすると共に、これからの地区ローターアクトクラブへのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。





## ロータリー財団 学友会総会報告

奨学金・学友会・VTT 委員会  
副委員長

市村 正史 (十日町 RC)

6月25日ホテルイタリア軒にて2022-23年度のロータリー財団学友会総会が開催されました。当日は高橋秀樹ガバナー、新保清久学友会アドバイザーを始め、佐藤真財団委員長や財団委員の15名、学友会からは奨学生が10名と本年度派遣予定の2名からも参加していただき、また3名の奨学生からはzoom参加していただきました。

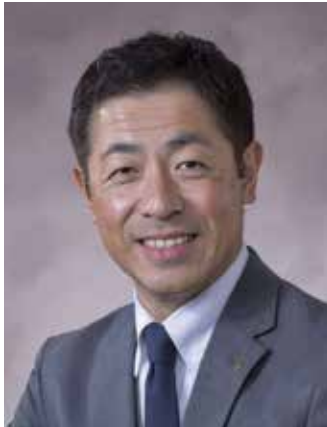
総会は高橋ガバナー、新保アドバイザー、佐藤委員長のご挨拶で始まり、出席者紹介や欠席者の近況報告の紹介までを財団委員で進行させていただきましたが、議事からは懇親会も含め、学友会会長の高橋ガバナーに進行をおまかせでお願い致しました。そして高橋ガバナーから学友会の歴史やアドバイス等のお話をいただきました。

議事終了の後はお待ちかねの懇親会の部です。ここ数年は中止になったり、いろんな規制がありましたが、普通にお酒が飲め、マスクなしで話ができる久しぶりの懇親会となりました。懇親会では高橋ガバナーが奨学生・奨学生候補者・zoom参加の奨学生一人一人指名をして自己紹介や近況の話をしてもらい、皆さんの一生懸命さにはこちらも聞いていて頭が下がる思いでした。

当日出席の奨学生の皆さんで一番古い方は1965年度で、ロータリー財団の奨学金制度がかなり昔から活用されていて今に至っているということをつくづく感じました。

懇親会の後半は奨学生同士、席を移動しながらあちこちで笑顔で話し合う姿がみられ、今年度派遣の奨学生候補のお二人も経験者からいろんな話を聞くことが出来て、不安が多少なりとも少なくなったかと思えますし、終始和気あいあいの和やかない懇親会となりました。

最後に、奨学生・奨学生候補のみなさんの今後益々のご活躍を祈念し、また奨学生を力強くバックアップしていただいた推薦クラブに深く感謝申し上げます。



## 地区事務職員合同会議 開催

2022-23 年度筆頭副幹事

佐藤 邦栄 (新潟 RC)

2023年6月28日(水)に地区職員合同会議がホテルイタリア軒にて、地区役員6名、地区事務所職員3名、各クラブ事務職員20名の参加を得て開催されました。冒頭、高橋ガバナーより、この会議が過去に開催例がなく、他地区でも開催の話を聞いたことがないこと、また、この会議を開催する背景には、ロータリアンのメンバー数が全国的に減少しており、実務を担えなくなっていること、また、国際ロータリーの大きな変化(今まで以上に奉仕活動を重視していること、公共イメージ向上を推し進めていること)によって、事務局の役割が今までになく重要になってきており、事務局員同士の情報交換を図るべく、この懇談会を企画したとの趣旨説明がありました。

続いて、丹治地区事務所長より、地区事務所設立の経緯の説明、6月19日よりホテルイタリア軒に引っ越した、新しい地区事務所・ガバナー事務所の見学が行われました。

昼食を取ってからの質問・要望事項では、多くの質問や切実な要望が寄せられるなど、活発な意見交換が行われました。普段はメールや電話でのやりとりしかない事務職員同士が、顔を合わせて意見交換ができる充実した懇談会であったことを報告させていただきます。





## ロータリーにおける危機管理体制の推移と 当地区における今後の危機管理体制について

2016～24年地区危機管理委員会  
委員長

石本 隆太郎 (新潟 RC)

### はじめに

- 1・5月8日から新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが、季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に移行し、3年余り続いた国のコロナ対策は大きな節目を迎え、日常生活も正常に戻りつつあります。
- 2・去る7月15日(土)、恒例の当地区危機管理委員会が開催され、委員長の石本より、「ロータリーにおける危機管理体制の推移」等について、2021年の「ガバナー月信8月号」掲載の報告書を基に説明した後、青少年奉仕に関わる各委員長との情報交換を行いました。
- 3・ロータリーにおける青少年奉仕活動(青少年交換、インターアクト、ローターアクトライラ、米山奨学会、ロータリー財団)にはそれぞれ長い歴史があり、地区やクラブにとって、費用や時間等の面からも最重要課題となっております。
- 4・一方、大地震等の自然災害や今回のパンデミック、さらにはロシアのウクライナ侵攻等もあって、青少年の安全を守る上からも、RIからの青少年奉仕活動に対する指導や規制は、近年、ますます強まる一方であります。
- 5・地区レベルだけでなく、クラブ会長はじめ青少年奉仕活動に関わるクラブリーダーの皆様にも、危機管理意識を高めていただくため、再度、「ロータリーにおける危機管理体制の推移と、当地区の危機管理体制」について報告させていただきますので、是非、クラブアッセンブリー等で取り上げていただけることを期待致します。

### 地区組織に危機管理委員会が設置された経緯

- 1・2000年頃から世界各地で青少年交換学生が被害者となるハラスメント事件が多発し、クラブ会長や地区ガバナーに多額の賠償金が求められる訴訟事件が発端となって、2006年、RI理事会は大切な青少年の安全を守るとともに、ロータリー組織を守る必要に迫られ、世界全地区ガバナーに対し、危機管理への対応を義務付けました。



- 2・具体的には、① 損害賠償責任保険への加入。  
② 青少年プログラムの法人化。  
③ 地区組織に危機管理委員会設置。

の3項目の実施を義務付け、その証明書をもたらった地区でなければ、青少年交換プログラムに参加出来ないこととしたのです。

- 3・そこで数人のパストガバナー有志が中心となり、特定非営利活動法人・国際ロータリー日本青少年交換委員会 (RIJYEC) を立ち上げ、全国のロータリー会員1人当たり100円の支援金を拠出していただき、青少年交換留学生の支援事業等を始め、ロータリー組織を守るための賠償責任保険費用や、事務運営費等を賄ってきました。

#### 当地区における危機管理委員会

- 1・2007～08年度に、当地区の組織に危機管理委員会が初めて登場しましたが、この構成メンバーは、RI理事会の指導の下、青少年奉仕活動に携わる委員会の委員長の他、ガバナーエレクトとガバナー補佐1名、さらに、ロータリアン以外の有識者委員としての女性代表、司法関係者、医療関係者が各1名ずつ参加し、委員長はパストガバナーが就任。事務局として地区幹事が加わるという、他の地区委員会とは性格の異なる特別委員会で、毎年、7月の年度初めに委員会を開催し、青少年奉仕活動に関わる各地区委員長に対して、「危機管理」に対する啓蒙活動等を行ってまいりました。
- 2・2015～16年度、RI理事会は「青少年交換・虐待とハラスメント防止に関する方針」を打ち出し、当地区も「危機管理総則」及び「危機管理委員会規定」を制定。委員会の役割を明確にするとともに、RIJYECへの支援金も、会員1人当たり200円に値上げとなり、当地区も毎年、一般会計より約40万円を支出して支援しています。
- 3・2017年1月、RIは「ロータリー青少年保護の手引き」を全世界ガバナー宛に配信。全ロータリアンに青少年の安全を考え、彼らを守るため最善を尽くす責任を課すとともに、「青少年と接する際の行動規範に関する声明」の具体的指針として、RIの常設プログラム(ライラ、インターアクト、ローターアクト)の全てを包括することを発表しました。
- 4・これを契機に、RIJYEC理事会は34地区ガバナーの賛同と地区内クラブの了承を得て、青少年プログラムを、多地区合同青少年交換プログラム・多地区合同組織体として法人化し、2017年11月にRIの承認が得られました。
- 5・2018年4月に一般社団法人の法人登記が完了した後、従前のRIJYECを改編した、国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構(以下、RIJYEM)が、RIに対する全国青少年交換事業を一本化した窓口となって現在に至っております。

- 6・その後、RIより他の青少年プログラム（ライラ、インターアクト、ローターアクト）も損害賠償保険に加入するよう要請があり、人格権特約付賠償責任保険（損害賠償額1億円）に全34地区が加入。本地区も、会員1人当たりの年間保険料70円に、会員数を掛けた約14万円を、毎年、一般会計より支出して現在に至っております。
- 7・さらに又、2018～19年度には、「国際ロータリー第2560地区危機管理総則」の第7条（危機管理資金）に、「危機発生時の対応に必要な資金として地区会計に危機管理基金を常設する。その管理執行は危機管理委員会の決定に従う。」と明記されたのを受け、国際活動特別会計から危機管理特別会計に500万円を基金として積み、大規模災害時等における資金面からの危機管理体制を固めました。
- 8・ロータリーの青少年奉仕活動は常に危険と背中合わせで、時には人命にも関わる大問題で多額の費用支出を伴う場合もあり、奉仕活動を主催するガバナーや担当委員長、さらにはクラブ会長の責任は大変重くなっております。
- 9・今後も、ロータリーの青少年奉仕部門に関わる全ての委員会が情報等を共有しながら、取り組んでいく必要がありますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

#### 新型コロナウイルスによる感染症の蔓延とロータリー活動への影響

- 1・2020年1月下旬、“中国で新型肺炎発生！”とのマスコミ報道が取り上げられてから、連日、新聞一面トップに「新型コロナウイルス」に関する記事が載るようになりました。
- 2・2020年2月16日、佐藤ガバナーエレクトの国際協議会報告の後、地区運営会議が開催された時点では、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の報道の方に関心が集まり、“新型コロナがロータリーに飛び火する！”と予想した方は少なかったと思います。
- 3・その直後の2月25日付で、RIJYEMより全地区ガバナー宛「新型コロナウイルスへの対応についての指針（その1）」が発出され、その後の状況は一変いたしました。
- 4・佐藤ガバナーエレクトは、大谷ガバナーと連携を取りながら、「3月14日に開催を予定していた会長エレクト研修セミナー（PETS）の中止」を決定。さらに、3月9日付で、「5月30日開催予定の地区研修協議会の中止」も決定という、これまで経験したことのない大変な事態に陥りました。
- 5・各種会議に代わり、映像資料DVDや紙資料プログラムによる自主講習とレポート方式に切り替えることが地区役員やクラブ会長宛に通達されましたが、佐藤ガバナーエレクトにとっては苦渋の決断で、大変なご苦勞をされたと推察いたします。
- 6・3月9日に、RIJYEMより「地区危機管理支援委員会決定指針（その2）」が発出され、「基本方針として来日学生全員を直ちに彼らの母国に帰国させる。」という指針により三牧青少年交換委員長を中心に、来日交換学生の帰国準備に取り掛かりました。

- 7・3月12日、RIJYEMより「地区危機管理支援委員会決定指針（その3）」が発出され、「日本よりの派遣交換学生を早急に帰国させる。」との指示で、地区青少年交換委員会は、総力を挙げて交換学生の帰国準備に取り掛かり、当地区1年交換学（アウトバンド3名、インバンド3名）の全員が無事帰国できたことは何よりでありました。
- 8・交換学生にとっては留学期間の短縮という残念な結果になり、終了証明書は発行されたといっても、1年留年という大きな犠牲を払っての途中帰国ですから、精神的ショックも大きかったと思われますので、青少年交換委員会としては、今後のアフターフォロー等に、十分留意する必要があります。
- 9・2020年4月9日のオンライン会議において、2020年～21年の佐藤ガバナー年度の青少年交換事業の中止が決定。すでに準備に入っていた青少年交換委員会をはじめ、留学を目指していた学生にとっては、大変残念であったと推察しております。
- 10・2021年3月19日開催のバーチャル会議でも、RI理事会は「新型コロナウイルスの世界的流行が続いていることを受け、2022年7月1日までは、地区が長期・短期の青少年交換を実施してはならないことを決定しましたので、佐藤年度に続いて、高尾年度においても、青少年交換事業は出来ないこととなりました。
- 11・2021年7月4日に、第7回全国青少年交換委員長・全国危機管理委員長合同会議がZOOM形式で開催され、各地区の委員長より地区の現況報告と、2022年7月以降の青少年交換事業の今後の見通し等について意見が交わされましたが、当地区を含めまして“コロナ次第で、見通しが立たない！”という地区が多かったように思います。
- 12・その後、東京で1000名を超えるコロナウイルス感染者が出たため、東京都に4回目の緊急事態宣言が発令され、東京オリンピックの開催も、“無観客開催！”を主流とすることが発表になるなど、今回のパンデミックによる被害は、我々の想像をはるかに超えたものであり、これまでの価値観や今後の生活様式を一変させるものとなりました。
- 13・2021～22年の高尾ガバナー年度を振り返ってみますと、地区の3大事業であるPETS、地区研修協議会、地区大会を始め、各委員会事業が規模縮小やオンライン開催を余儀なくされ、特に青少年奉仕に関わる委員会事業は、開催中止に追い込まれたものが続出。青少年交換事業も募集再開はかなわず、次の高橋ガバナー年度の交換学生は、3年連続して、短期、長期共にゼロという結果に終わりました。
- 14・2022～23年の高橋ガバナー年度に入って、ようやく新型コロナも終息に向かい、地区3大事業を始め各委員会事業も、対面とWEB視聴のハイブリッド方式の採用等々、工夫を凝らしながら実施し、懇親会もほぼ平常通りに開催出来るまでになりました。
- 15・青少年交換事業も3年間中断しておりましたが、ようやく募集再開に漕ぎ着け、秋には短期交換学生2名と長期交換学生1名が決定。米山ガバナー年度に入ってからの出発を目指して、年明け早々からのオリエンテーション等も順調に終了しております。

### 終わりにあたり

- 1・新型コロナが「5類」に移行したとはいうものの、感染状況は依然として油断ならない状況が続いておりますし、地球温暖化の影響からか、集中豪雨の影響による大規模災害の報道も後を絶ちません。
- 2・さらに、ロシアのウクライナへの軍事侵攻も、今年の7月で500日余り経過し、戦争終結の見通しは全く立っていませんし、最近の再度にわたる北朝鮮の弾道ミサイル発射実験や、中国の台湾侵攻の可能性を考えた場合、我国を取り巻く国際情勢は、予断を許せない状況にあるといっても過言ではありません。
- 3・また7月3日付けの新潟日報朝刊に、アメリカ東部ボルティモアの野外パーティ会場で銃撃事件があり、少なくとも2人が死亡。28人が負傷したとの記事が載っておりました。米国では銃撃事件が後を絶たず、4人以上が撃たれた銃撃事件は、今年に入って330件以上発生しているとのことで、我国の留学生が巻き込まれないという保証はありません。
- 4・去る7月2日、東京において開催された「第11回全国危機管理委員長会議」において、第2660地区の佐藤 剛ガバナーエレクトが「危機管理は鬼気管理」と題して、大規模災害時等における心構え等について興味深い講演をされました。
- 5・その中で、アメリカでは学校の教材として「銃撃犯が、校内に侵入した際の対処方法」等の動画が使われているという話をされ、我国でも、海外に派遣されるロータリー青少年交換学生には、オリエンテーション等において見せた方がよいとの要望がありました。
- 6・RIJYEMからはそれについての正式指示はまだありませんが、坂上青少年交換委員長にそのビデオを用意していただいたので、それらをご覧いただき、皆様のご意見を伺いたいと考えております。
- 7・地区資金特別会計予算（案）によれば、2023～24年の米山ガバナー年度における青少年育成活動会計（C1）は、当年度収入額で会員一人当たり3,200円×2,000名で6,400,000円が計上され、当年度支出額としても11,000,000円が計上されています。
- 8・さらに、青少年交換を始め、インターアクト、ローターアクト、ライラの各委員会活動に、ロータリー会員が費やす時間は相当のものであり、それらが無駄にしないためにも、諺に言う「虎穴に入らずんば虎児を得ず」と「君子危うきに近寄らず」を使い分けながら、青少年の安全を第一義としてロータリー活動に取り組み、最大限の成果を上げられるよう祈念致しまして、本文を終了させていただきます。



## 2023-24 年度 インターアクト年次大会を終えて

インターアクト年次大会  
実行委員長

井関 徹也 (新潟北 RC)

2023年7月15(土)16日(日)に新潟東映ホテル様にて、2023-24年度インターアクト年次大会を開催いたしました。コロナ禍での行動制限が緩和されましたので、久しぶりの対面開催となりました。

参加校は、東京学館新潟高等学校・新発田中央高等学校・敬和学園高等学校・長岡工業高等専門学校  
の4校でした。

今回の大会テーマである

「災害は忘れたころにやって来る ～とっさの判断は日頃からの防災意識で!～」

に則り、お笑い集団NAMARA所属の「出来心」様よりご講演いただきました。

実際に気仙沼市で被災され、避難生活を送られた方のお話で、災害はいつ何時、誰の身に降りかかるか誰にも予測は出来ません。だからこそ、普段から備える事、とっさの時に行動できるよう、知識を蓄えることが重要だと再確認いたしました。「出来心」様のお話は、まさにそういった部分にフィットするお話で、身近にある道具(ダンボール・油・ペットボトル・ラップ・アルミホイル等)で、実際に避難所生活で役立った道具や、本来の使い方とは別の使い方で役立つ道具、それらを組み合わせて避難生活に役立てる道具にしたりと、大変勉強になるお話でした。

また、「決め事は多数決でなく、話し合いが大切」とのお話もありました。多数決は議論がない状態に進むので、十分に議論を重ね、答えを出しましょうと。

文字数の関係で割愛いたしますが、まだまだ伝えたいことが満載のご講演でした。「出来心」様、大変為になる貴重なお話をありがとうございました。

今回用意しましたTシャツは、ホスト校である東京学館新潟高校のスクールカラーである紺色で、胸のインターアクトロゴマークの印刷は障がい者施設にお願いしました。まさにインターアクトクラブの活動に沿ったTシャツとなりました。

最後に、ご参加いただいた学校関係者の皆様、ロータリアンの皆様、関係各社の皆様、ホストクラブである新潟北ロータリークラブの皆様、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。ご協力ありがとうございました。



## 地区研修が目指すもの

地区研修委員会  
委員長

佐藤 真 (村上岩船 RC)

先月のガバナー月信で地区研修委員会設立の経緯をお伝えしましたが、「地区の今までの研修と何が異なるのか？」と疑問を持つ方もいらっしゃるでしょう。ガバナーは自らの年度の奉仕活動を充実させるために、エレクト年度で準備を十分に行います。地区研修委員会で行う研修はその準備を補完することを目的としています。今回はエレクト年度で行われる従来の研修の流れや目的を再確認してみたいと思います。

エレクト年度1月末にガバナーエレクトは国際協議会に赴き、RI 会長エレクトから RI 会長方針を直接伺い、ガバナーとして地区内各クラブの奉仕活動を充実させるための研修を受けてきます。

帰国後は速やかにパストガバナーに対して“帰国報告会”を行い、自らの年度のガバナー補佐、地区役員（ガバナースタッフや地区委員長など）に対して“地区チーム研修セミナー”を実施し、ガバナー年度での地区運営方針の周知やそれぞれの立場での役割への理解を深めてもらいます。ガバナーを支える地区役員がガバナーの年度方針を十分理解し、ガバナー年度の体制がここで構築される訳です。

その後3月には各クラブの会長エレクトに直接 RI 会長エレクトの方針や自らのガバナー年度の地区運営方針を伝える機会として“PETS”（Presidents-elect Training Seminar）を開催します。クラブ会長エレクトがクラブ会長となるために PETS が必須要件なのは RI 会長エレクトやガバナーの年度方針とクラブ運営方針が連動しなくてはならないからです。

PETS で各クラブの会長エレクトが年度運営の意欲を高めたところで5月に“地区研修・協議会”が開催され、各クラブのリーダー（委員長）に対して、年度方針の理解促進やクラブでの奉仕活動の充実のための研修が行われます。このようにガバナー年度スタートのための準備が積み重ねられていきます。

いよいよ7月からガバナー年度が始まるとガバナーは、“公式訪問”や“ガバナー月信”などを通じて、RI 会長方針や地区運営方針を各ロータリアンに直接伝え、各クラブの奉仕活動を充実させるべく指導をしていきます。その結果を報告しあい、集大成として更に次年度へ繋げていくのが“地区大会”です。

このように RI や地区は、幾度と方針を周知する仕組みを持っていますが、今回地区研修委員会が行おうとしている研修は、ガバナーを支えるガバナー補佐や地区役員、そしてクラブを率いるクラブ



会長・幹事に上記の流れを理解してもらおうと共に、ロータリー活動の本質を互いに学び合いながら、それぞれの立場での役割を早い段階から理解して頂く事を目的にしております。

現在米山ガバナーは公式訪問で地区研修委員会設立の経緯と目的について丁寧に説明を行われております。当委員会はガバナー月信を通じて、できる限り情報発信していきます。研修を通じ理解を深める事によって、ひとりひとりのロータリーライフを充実させて参りましょう。今後ともよろしくお願ひします。



# 「世界でよいことをしよう」 財団委員会通信

2023-24 年度 地区補助金オリエンテーション開催される

開催日 2023 年 7 月 22 日（土）13:30～15:30

会場 ホテルオークラ新潟

開催の目的は、地区補助金を活用したプロジェクトが「地区補助金授与と受諾の条件」&「2560 地区補助金要項」に基づいて適切に実行され最終報告書の提出がスムーズに行われる事を、プロジェクト担当者と財団委員会担当者が共有する事です。

今年度プロジェクト実施クラブは 37 クラブ。

佐藤真財団委員長の挨拶に始まり、補助金委員会担当者の紹介があり実施クラブとの名刺交換を行い最終報告書提出までの後方支援を約束しました。

骨子説明&最終報告書提出までの注意点を、「高田東クラブ」の最終報告書を参考に、稲葉補助金委員長からプロジェクト担当者へお伝えいたしました。

最後に、水本資金管理委員長より資金管理ルールについての説明がありました。

米山年度の地区補助金事業は、財団本部より 7 月 11 日に承認されました。その後資金が地区に送金される予定です。

各クラブに送金されるのは、8 月 5 日の会計監査終了後、通帳返却後自クラブ負担金を入金後地区事務所に PDF で報告、地区で確認後送金手続きとなります。

地域に貢献できるクラブの「奉仕プロジェクト」の実施を財団委員会は支援いたします。





## 第 2560 地区 2022-23 年度 6 月末 会員数報告

R	C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	6月末 会員数	うち女性 増減		
第1分区 (9クラブ)				-	372	375	37	3
		4	31.5%	88	89	1	1	
		4	17.9%	38	39	9	1	
		4	29.0%	33	31	1	-2	
		4	83.3%	44	48	3	4	
		5	21.1%	38	37	4	-1	
		3	16.0%	23	23	2	0	
		4	4.4%	45	45	4	0	
		4	51.4%	36	37	7	1	
		3	23.1%	27	26	6	-1	
第2分区 (9クラブ)				-	426	438	30	11
		4	32.1%	79	78	3	-1	
		2	16.4%	63	63	8	0	
		4	34.2%	108	114	6	6	
		3	80.0%	5	5	0	0	
		4	50.0%	38	40	2	2	
		3	13.9%	38	36	3	-2	
		4	35.1%	35	37	1	2	
		3	31.8%	18	22	0	4	
		4	51.2%	42	43	7	0	
第3分区 (5クラブ)				-	89	90	5	1
		4	18.8%	18	15	1	-3	
		4	50.0%	10	12	0	2	
		4	28.1%	30	31	1	1	
		4	40.7%	26	26	3	0	
		3	0.0%	5	6	0	1	
第4分区 (11クラブ)				-	350	364	27	14
		3	9.4%	55	53	0	-2	
		4	7.7%	33	39	2	6	
		5	6.9%	32	29	4	-3	
		3	16.7%	35	42	2	7	
		4	71.0%	29	31	4	2	
		5	5.0%	21	20	1	-1	
		4	3.6%	28	28	3	0	
		4	9.6%	54	52	2	-2	
		4	7.4%	25	27	3	2	
		4	14.3%	6	6	2	0	
		4	5.4%	32	37	4	5	

R	C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	6月末 会員数	うち女性 増減		
第5分区 (7クラブ)				-	288	287	25	-1
		4	70.8%	44	46	3	2	
		3	2.4%	40	42	0	2	
		3	25.9%	52	54	5	2	
		3	20.0%	43	40	2	-3	
		4	14.3%	21	21	1	0	
		5	18.8%	49	48	3	-1	
		4	25.0%	39	36	11	-3	
第6分区 (6クラブ)				-	116	124	12	8
		3	32.3%	31	31	4	0	
		4	10.0%	28	30	3	2	
		4	15.4%	25	26	3	1	
		3	0.0%	14	15	1	1	
		4	21.4%	12	14	1	2	
		4	12.5%	6	8	0	2	
第7分区 (7クラブ)				-	313	304	21	-9
		5	32.4%	70	70	4	0	
		4	36.1%	72	70	6	-2	
		4	12.5%	35	32	1	-3	
		5	100.0%	41	41	3	0	
		4	63.9%	35	36	3	1	
		5	56.0%	27	25	0	-2	
		5	81.8%	33	30	4	-3	

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,954 人
5月末会員数	1,982 人
女性会員数	157 人
純増減会員数	28 人
My Rotaryアカウント登録率	29.0 %

地区主要行事予定

2023年7月21日現在

年 月 日		行 事	会 場	
2023年 (R5) 米山年度	8月	会員増強・新クラブ結成推進月間		
		5 (土)	ロータリー財団地区資金監査	万代シルバーホテル
		5~6 (土~日)	第3回米山学友による世界大会	つくば国際会議場/ホテルグランド東雲
		6 (日)	全国RA委員長・地区代表合同会議	AP新橋
		8 (火)	大学担当者向け米山制度説明会	ホテルオークラ新潟
		19 (土)	南雲年度第1回ガバナー補佐会議・ガバナー補佐研修	長岡市社会福祉センタートモシア
		20 (日)	国際奉仕フォーラムディスカッション	ANAクラウンプラザホテル新潟
		26 (土)	第1回地区ロータリー財団セミナー	長岡グランドホテル
		27 (日)	第2回米山カウンセラー研修会	新潟県内
	27 (日)	米山記念奨学生研修会	新潟県内	
	27~28 (日~月)	米山記念奨学生親睦交流会	新潟県内	
	9月	基本的教育と識字率向上月間		
		2 (土)	第2分区IM (田村G補佐・新潟西)	ホテルオークラ新潟
		4~5 (月~火)	ガバナーエレクト研修セミナー (GETS)	グランドプリンスホテル 新高輪
		6 (水)	次年度の地区研修リーダーのためのセミナー (DTLS)	グランドプリンスホテル 新高輪
		9 (土)	第5分区IM (原G補佐・長岡東)	ホテルニューオータニ長岡
		10 (日)	南雲年度結団式	長岡グランドホテル
		16 (土)	第3分区IM (山田G補佐・新津中央)	割烹 一楽
30 (土)		第4分区IM (小出G補佐・三条東)	ジオ・ワールドVIP	
30 (土)		第6分区IM (庭野G補佐・十日町北)	ラポート十日町	
30 (土)	長岡東RAC創立20周年記念式典	ホテルニューオータニ長岡		



**【新入会員】**

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
新潟	榎本 豊	2023.05.23	第一生命保険(株)	新潟支社長	保障保険
三条東	堀川寧々子	2023.06.01	エイト	店長	飲食業
新潟東	上田 晋三	2023.06.02	(株)サンフロスト	会長	硝子加工業
新潟	藤野 修	2023.06.06	損害保険ジャパン(株)	新潟支店長	損害保険
新潟中央	内山 政二	2023.06.06	聖園病院	院長	整形外科医
新潟中央	武者 寛	2023.06.06	ワークマン新潟亀田店	代表	繊維品小売
新潟	五十嵐 豊	2023.06.13	JAバンク新潟県信連	代表理事専務	農林水産金融
新潟中央	佐藤 幸将	2023.06.13	(株)北陸宣美	施工部 部長	建築業
糸魚川	山田 陽介	2023.06.15	(有)チャーミング	代表取締役	建物サービス業
新潟南	櫻井 克郎	2023.06.21	岡三にいがた証券(株) 新潟支店	常務取締役 支店長	証券業
新潟西	内藤 豊大	2023.06.22	(株) STS	代表取締役	サービス業
新潟中央	阿部 康司	2023.06.27	Irie Garden	代表	造園
新潟中央	福田 元気	2023.06.27	Raise	代表	飲食業
新潟中央	宮前 涉	2023.06.27	宮前板金工業(株)	代表取締役	建築外装工事
新潟西	林 高弘	2023.06.29	アルファプラン(株)	代表取締役	コンサルタント業
豊栄	高橋 一彦	2023.07.01	木崎運送株式会社	代表取締役	運送業
豊栄	羽賀 睦	2023.07.01	株式会社暁工業	代表取締役	設備工事・管工事業
直江津	山地 裕一	2023.07.01	(株) JERA 上越火力発電所	所長	電気業
直江津	伊倉 雅之	2023.07.01	上越信用金庫 本店	本店長	金融業
糸魚川	杉森 学	2023.07.01	黒部川電力(株)	社長補佐役	電力供給
糸魚川	大橋 正秀	2023.07.01	東北電力ネットワーク(株) 糸魚川電力センター	所長	電力供給
越後春日山	赤岡 史夫	2023.07.01	株式会社上越シビックサービス	統括マネージャー	ビル管理業務
越後春日山	福崎 義則	2023.07.01	有限会社フクザキ	代表取締役	ファーストフード
越後春日山	丸山 和則	2023.07.01	岡田電気産業株式会社	副部長	電気設備・住宅設備卸売
三条	清水 泰生	2023.07.05	東北電力ネットワーク(株) 新潟県央電力センター	所長	電力事業
三条	中村 友昭	2023.07.05	(株)第四北越銀行 三条支店	支店長	銀行
三条	成田 秀雄	2023.07.05	(株)ナリタ工業	代表取締役社長	作業工具製造
長岡西	小林 幸夫	2023.07.06	大和電機産業株式会社	代表取締役社長	配電盤製造
長岡	宮越 忠範	2023.07.11	(株)第四北越銀行長岡本店営業部	専務執行役員	銀行
長岡	波多 恵理	2023.07.11	茶道宗徧流全国審心会	会長代行	茶道教授
燕	成田 愛	2023.07.13	第一生命保険株式会社	オフィストレーナー	保険 金融業

※再入会

**【訃報】** ご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
柏崎東	小熊 忠良	2023.06.25	小熊不動産	代表	不動産業	
糸魚川	池原 英男	2023.06.28	池田屋酒造(株)	代表取締役	日本酒配布	
新潟東	水本 直弥	2023.06.29	NAO	代表	不動産賃貸業	会長・幹事 他



## ローターアクトクラブへのアプローチ



### 第3地域 ロータリーコーディネーター 滝澤 功治 (神戸須磨 RC)

ロータリーコーディネーター (RC) は戦略計画の推進と会員増強・新クラブ拡大を担当し、各地区のガバナーに協力し、各クラブの活性化を図る任務を与えられているものです。この「クラブ」にはローターアクトクラブ (以下 RAC) も入ります。

2019年の規定審議会で RAC も RI の構成員になりましたが、欧米ではともかく、日本では RAC の地位はまだロータリークラブと同等とは言えず、「支援」が必要のように見えます。

2023年5月にメルボルンで開催された国際大会の分科会でも RAC が取り上げられていました。そこでは RAC の今後の取組として次のような提言がなされていました。

- ・ Holding joint events
- ・ More Rotaractors on Rotary and TRF Committees
- ・ Evaluating specific training opportunities
- ・ Setting goals in Rotary Club Central

私は最初の「イベントを共同で開催する」ということに着目しました。

第3地域では去る7月9日に戦略計画推進セミナーが開催されました。その中の RAC についてのセッションで、RI 第 2710 地区(広島・山口)の板井貴大ローターアクト地区代表から、5月28日にマツダスタジアム周辺で行ったポリオ根絶のためのキャンペーンについて、今回は RAC が中心となって準備し、ロータリークラブの協力を得て実施したとの発表がありました。また RI 第 2720 地区(熊本大分)の向井蓮ローターアクト地区代表からは、同地区と台湾の RI 第 3523 地区との姉妹提携に合わせ、両地区ローターアクトの交流協定も締結し、海外交流を行ったとの発表がありました。このように両地区がローターアクトを前面に押し出し、ロータリークラブの協力を得て積極的な活動を展開していることは素晴らしいと思いました。またこのセッションでは、中学・高校時代の同級生だった2人のインターアクターが、同じ大学に進学したらローターアクトで活動しようと約束したのに、入学した広島大学には RAC がなかったのが、入学後わずか2か月で広島大学 RAC を結成したという発表がありました。発表した下野紗羽さんと當銘花奈子さんの2人の元インターアクターの行動力と発想の柔軟さに感銘を受けました。このような素晴らしい活動を起爆剤として、日本でも大学基盤の RAC がどんどん増えることを期待しています。

ロータリークラブは RAC にどのように対応すべきでしょうか。これについて、先般、ゴードン R. マッキナリー RI 会長は、RAC には「支援」ではなく「協力」することが必要だと言われ、バリー・ラシン TRF 管理委員長は、ロータリークラブは RAC のよきメンターにならねばならない、ローターアクトにはリーダーとして接することが重要だと言われました。肝に銘じておきたいと思います。



### 第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 丸尾 研一（神戸西神 RC）

第3地域のロータリー公共イメージコーディネーター（RPIC）を拝命しております、丸尾研一（RID2680 神戸西神 RC）です。RPICは2年目になります。公共イメージコーディネーターの役割は、ロータリー内外でロータリアンを「世界（地域）を変える行動人」として描き出す影響力の強いストーリー（ストーリーテリング）を特定し、効果的に発信する能力をクラブと地区が強化するのを援助することで、ロータリー行動計画を積極的にすること。地区の組織と連携して、主に地域社会におけるネット上の存在感を得られるように支援すること、メディアと地域社会に積極的に伝えること、ブランド認知度を高めるために、ロータリーのオンラインの公共イメージリソースの利用をクラブと地区に推進すること、地域に合った方法で公共イメージキャンペーンを実施するための方法についてクラブと地区に助言する、ポリオ根絶におけるロータリーと会員の役割について周知を図る。

また今回共有したいこととして、1 確認 ロータリークラブの公共イメージと認知度向上は重要テーマであること、2 自覚 ロータリアン一人ひとりが強力な広報マン（ブランド推進者）であること、3 行動 各クラブで広報マインドを高めて奉仕活動の広報にチャレンジすること。私がロータリーに入会したころは、陰徳の美学を教え込まれましたが、いまや広報が重要であることは言うまでもありません。

ここで話がかかりますが、今年久しぶりに行われた第50回神戸まつり（2019年以来4年ぶり）について記します。これまで5月の第3日曜日に開催されていたメインフェスティバルが、広島サミット開催と重なることから例年より一週間遅れの5月28日に開催されました。（おかげでメルボルンに行けなかった）神戸まつりは三宮のフラワーロードを交通規制して、パレード行進を行うのですが、今年のトピックスは大きく2つ、一つは「神戸ジャズ100周年記念パレード」これは日本で初めてプロバンドによるジャズが演奏されてから100周年、もう一つは「ディズニー40周年スペシャルパレード」—私のガバナー年度から毎年ロータリアン約40名と米山奨学生約20名と幼稚園児の鼓笛隊、約60名達と一緒にパレードを行進するのですが、この鼓笛隊の集客力は抜群、ロータリアンの比ではありません。沿道には、おじいちゃん、おばあちゃんたちがギッシリ並んでカメラのフラッシュ（思わず勘違い）でも無事終了することができ、関係各位皆様に感謝申し上げます。





第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター 永田 壮一（熊本城東 RC）

2023-2024 年度が始まりました。

新型コロナウイルス感染症も感染症分類の2類相当から5類となりました。変更の理由は決して弱毒化したとか、感染数が減ったという訳ではなく多くの人がワクチンを接種し、ワクチンの効果（感染予防効果や軽症化の効果）が認められ、また抗ウイルス薬も安定供給が確認できたためと思われます。

新年度からは多くの地区で従来通りの対面式のクラブ例会が開催されているようです。そして、例会のあり方にも変化が見られています。今まではメイクアップは他のクラブを直接訪問して行うものでしたが、Zoom や Face Time を使って Web 参加するハイブリッド例会をかなり多くのクラブが採用し、例会のあり方にも変化が出てきました。

さて、第3地域では、毎年ロータリー年度の始まりの7月に戦略計画推進セミナーを開催しています。今年も7月9日日曜日・神戸ポートピアホテルに於いて、第3地域11地区のガバナー・ガバナーエレクト・ガバナーノミニエ・地区会員増強委員長・地区公共イメージ委員長・地区ロータリー財団委員長においでいただき開催いたしました。セミナーの開催担当は、ロータリーコーディネーター、ロータリー公共イメージコーディネーター、ロータリー財団地域コーディネーターが順番に担当しますが、今年は私たちロータリー財団地域コーディネーター（RRFC）と同補佐（ARRFC）の担当でした。内容は、RIの方針に従い「ローターアクトクラブの強化」「DEIの理解」、また佐藤芳郎 RI 理事が推進される「世界ポリオデー」や「Grow ROTARY」の話題、ロータリー財団からは「日本のロータリー財団の目標」「冠名基金の推進」「災害救援基金」について提案し、活発な意見交換が行われました。

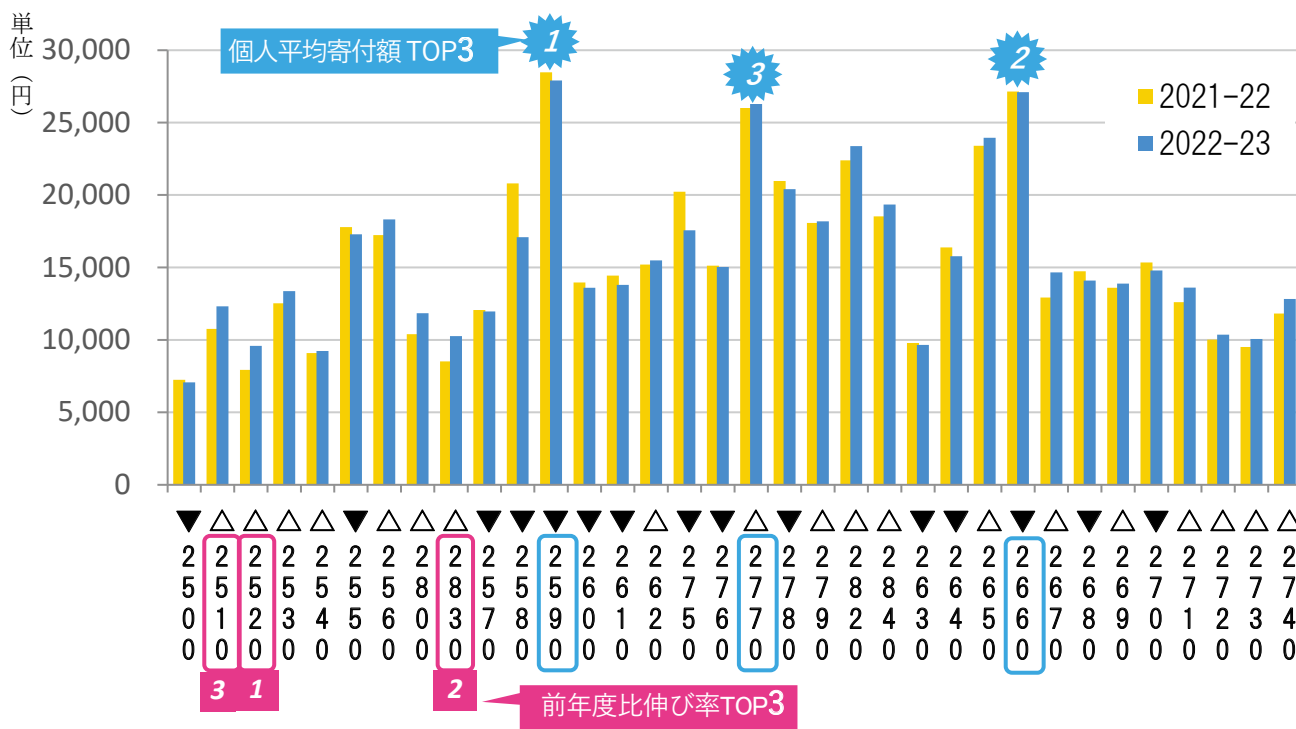
今年、RRFCとして三年目の年になります。ロータリアンの皆様にはロータリー財団に対する多くのご支援をいただき感謝申し上げます。今年、集大成として、まず1.「年次基金寄付ゼロクラブゼロ」の達成、それから2.「ポール・ハリス・ソサエティ（PHS）」会員を1地区に30名以上増強をお願いすること、3.新しく決まった「ポリオプラス・ソサエティ」の参加を推進すること、4.大口寄付の件数を各地区2名以上お願いすること、を目標として挙げさせていただきます。

第3地域の11の地区では5月末の昨年同月比では3地区が年次基金の寄付額が前年を上回りました。長らくコロナ禍でご無理は申し上げられませんが、ロータリー財団へのご寄付は世界で良い変化をもたらすための原動力となっています。ぜひロータリー財団の主旨をご理解の上、温かいご支援をお願いいたします。



## 1. 2022-23 年度 寄付金結果

2022-23 年度の寄付金は約 14 億 2,300 万円となりました。前年度比 5.7%増（普通寄付金:1.2%減、特別寄付金:8.8%増）、約 7,700 万円増加しました。とりわけ、2 人の学友からそれぞれ約 6,900 万円、1,000 万円という高額寄付をお送りいただいたことなどもあり、今年度の予算を達成することができました。皆さまに厚く御礼申し上げます。2023 年度も引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。



個人平均寄付額 TOP3 【全国平均：16,960 円】

- ① 第 2590 地区：27,903 円
- ② 第 2660 地区：27,097 円
- ③ 2770 地区：26,283 円

前年度比伸び率 TOP3

- ① 第 2520 地区：120.9%
- ② 第 2830 地区：120.5%
- ③ 第 2510 地区：114.5%

## 2. 第 2 回 次期地区米山奨学委員長セミナー開催

2023-24 年度の地区米山奨学委員長を対象とする第 2 回セミナーを 6 月 13 日、米山梅吉記念館（三島）で開催しました。セミナー開始前に市川学芸員から、館内展示と梅吉翁の墓所を案内していただきました。

セミナーは若林紀男理事長の挨拶に続き、事務局から学校説明会や奨学生選考の注意点の他、学友会、広報、寄付の説明を行いました。



その後 4 グループに分かれ、奨学生選考、奨学生育成、学友会の活性化などをテーマに、各地区における現状の課題や、取り組みについてディスカッションを行いました。最後にディスカッションの内容を代表者が発表し、井原實常務理事の挨拶で閉会となりました。全国から集まった次年度委員長間で活発な意見交換が行われました。

### 3. 学友ロータリアンが10万円寄付「毎年続ける」

中国出身の米山学友で、第2620地区甲府中央RCに所属する伊原 廣鴻さん(1997-98/一宮RC)が10万円を寄付し、6月26日の例会にて第1回米山功労者として表彰されました。

現在は山梨県内で内科医として勤務している伊原さんは、「米山奨学生に合格した時は、世界が変わったかのように嬉しかったことを今でも覚えています。一宮RCの当時のカウンセラーさんには何から何までお世話になり、本当に感謝しています。これからは、米山奨学生だったことへの恩返しをするべく、毎年寄付を続けるだけで



渡辺委員長から感謝状を授与された伊原さん(右)

なく、医療でも地域に貢献していきたいです」と、力強く今後の意気込みを語りました。

例会では、同地区の渡辺郁米山記念奨学委員長が卓話を行い、当事業の概要について説明。質疑応答も行い、米山奨学事業への理解を深め

ました。同クラブは、衛星クラブとしての活動を経て、2022年4月に正式にロータリークラブとして始動。第2620地区内において女性比率1位のクラブとして2年連続で表彰された特徴的なクラブで、2023年4月からはモンゴルからの奨学生を受け入れています。

### 4. 10年の時を経てベトナムで再会

米山学友の累計数が23,000人を超え、今や世界中で学友が活躍しています。今回は、10年の時を経て学友と再会を果たしたロータリアンのお話をご紹介します。

第2670地区、阿波徳島RCは2013年から1年間、ベトナム出身のディン・ミン・フィーさんの世話クラブとなりました。当時クラブ米山委員長だった向井眞一会員によると、例会後共に食事に行き飲み交わしたり、クラブの野球チームに参加したりと、ディンさんは「社交的で、明るく真面目な性格の好青年」だったそうです。奨学期間終了後、ベトナムへ帰国したディンさんは、同地区の米山学友であるフィン・チャ

ン・ティー・フェンさん(2011-13/美馬RC)と結婚。向井会員にも結婚報告の連絡が届きました。直接お祝いすることは叶いませんでしたが、今年6月のベトナム出張を機に、ディンさんと再会。現在は不動産関係の職に就き、1人の父親として大きく成長した姿を目の当たりにし、感銘を受けたそうです。

現在も堪能な日本語を操るディンさんは、「また日本に行ってクラブの皆さんに挨拶がしたい」

と思いを語り、クラブの方へのお土産をくれたそうです。向井会員は、その様子を帰国後の例会で披露。10年という月日が流れても、変わらず素敵な交流が続いています。



ディンさん(中央右)一家と向井会員(左)

Thank you



#### 学友からの高額寄付

2021年12月に当会へ100万円をご寄付いただいた台湾出身の張忠信さん(1961-64/東京RC、1964-65/東京日本橋RC)からこのたび、2回目のご寄付として1,000万円をいただきました。張さんは、自身と同じ台湾出身の米山学友が累計で3,500人を超え、多くの後輩たちが巣立っていることに対し、喜びを語りました。改めて、お気持ちに感謝申し上げます。